

基本設計図と施工図及び工事明細書と工事实行予算書の完成と工事实行金額が確定してから工事に着手すべきである。特に仮設工事段取りと〈V-1-2〉敷地概要確認は施工図に大きな影響を与えますので、調査結果の反映と工事費用が未決定での工事着手は後の工事計画全体を狂わせるので厳禁です。

1 設計図書

基本図書	は建築確認用設計図と工程表	: 対客 = (施主)
社内管理用 (管理部)	は基本図書と工事見積書・工事实行予算書 工事進捗状況と協力業者契約状況と実行金額の掌握資料	
工事現場用 (スーパーバイザー)	は基本図書と施工図及び工事内訳明細書・工事实行予算書 現場と協力業者との施工数量打合せと見積・契約の資料 工事实行予算書は現場持ち込み厳禁	
対客契約用 (営業部)	は基本図書と工事見積明細内訳書・工事見積書	

以上により行うので途中変更等が出た時は全図書をコンピューターで新しく書き換えることにより、それぞれの担当職務者間のトラブルを回避します。

1) 作図ポイント

a) 基礎

耐力壁直下の後に浴室とポーチ・土間・設備機器置場を決定する。

必要以上の布基礎は床下空気の流れを遮断・基礎と設備工事費用の増大を招くのみです。 基礎断面図 [図-V-3-1] 参照

b) 床

外壁線の後で床開口部を設計する。

床開口部とは吹抜け・浴室・階段室・床下収納庫・掘天井・ダクトスペース・点検口、根太方向は開口部によって異なりますが、特別な場合を除いては一方向に統一した方が施工性が向上します。

その他にバルコニー、ロフト、床段差を設計します。

メンテナンス用開口部を別途に考えるか又は、床下収納庫で兼用します。